

エージェンシーを発揮するための学び推進プロジェクト 教育長メッセージ

先生方、こんにちは。群馬県教育長の平田です。先生方には感謝しかありません。日々たくさんのご苦勞があると思います。学校には子供たちの笑顔が溢れています。先生方のご尽力のおかげです。心から感謝しています。本当にありがとうございます。

さて、群馬県教育委員会では、この度、令和6年度から5年間の本県の教育の方向性を示す「第4期群馬県教育振興基本計画」（これを「群馬県教育ビジョン」と称します）を策定しました。最上位目標のキーワードは「エージェンシー」です。聞き慣れない言葉かもしれませんが、「人が誰しも生まれついて持っている、自分と社会をより良くしようと願う意志、原動力」を「エージェンシー」と呼んでいます。

人はみな自ら成長する力を持っています。特に子供・若者の成長の場面は感動的です。ここに立ち会えることは、教育・保育に携わる仕事の大きな魅力だと思います。私もまた、教え子たちがそれぞれの、その時々々のスピードで、時に爆発的に成長する姿を目の当たりにしてきました。その姿に励まされ、そして人が本質的に持つ力に畏敬の念を抱きました。同じ思いを持つ先生方も多いのではないのでしょうか。「エージェンシー」を身近な例で表すと、人が本質的に持つ、伸びゆこうとする力であると考えます。

一方で、「エージェンシー」のように、新しい言葉が出てくると、何か今までと違うことをしなければならないのかと身構えてしまうかもしれません。しかし、これまで先生方が日頃の授業や生活の中で大切にされてきた、新しい物事にも前向きに取り組んだり、失敗してもあきらめず挑戦したり、仲間とコミュニケーションを図りながら問題を解決したりする力をより一層育てていきたいということであり、これまでの考え方と大きく変わるわけではありません。

予測困難で、変化の激しい時代に柔軟に対応していくためには、私たち一人一人がなお一層当事者意識を持って、子供中心の学びを実現し、「主体的・対話的で深い学び」を充実させることが重要であると考え、あえて「エージェンシー」という言葉にしました。

各自が「エージェンシー」をのびのびと発揮するためには、大前提として、「失敗してもよい」「間違ってもよい」ということを、子供たちも、また周りの人も心にとめておくことが大切です。私たち大人は、よかれと思って、子供たちが失敗しないように、間違わないようにと、彼らを導いてしまうことがあります。その結果、子供たちは、失敗や間違いを恐れ、自ら動き出せなくなってしまうこともあるのではないのでしょうか。

人は、間違ふことが当たり前。間違ったら、もう一度考えて、やり直せばよいのです。ですから、子供の自己決定を待ち、自ら動き始めることを待ち、挑戦したことを認め、失敗を受容し、その成長を見守ること、すなわち、子供を信じて、発達段階に応じて子供に任せることが大切です。

毎日の生活、遊び、各教科等の授業、行事等において、自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す場面をこれまで以上に、意図的に取り入れていただくことで、子供たちが「エージェンシー」を思う存分発揮できるようにしていきたいと考えています。

そのために、幼児から高校生までを一貫して、「エージェンシー」を発揮する「自律した学習者」を育成することが重要であると捉え、県内の幼児教育施設、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校の先生方を対象としたリーフレットを作成しました。

新たなことを目の前にすると、誰もが不安になるものです。しかし、私たちがこのリーフレットを通して一体となり、失敗を恐れず、試行錯誤しながら、「エージェンシー」を視点とした教育活動を充実させていきたいと思えます。その先には、ありのままの自分と他者を大切なものと認めて、自分のよさや可能性を生かし、自信を持ってキラキラ輝きながらのびのびと学び、生活する子供たちの姿が待っているはずです。その姿を楽しみに、子供たちの持つ爆発的に成長しようとする力を信じて、共に取り組んでいきましょう。どうぞよろしくお願い致します。